

6. 産業経済事象の分析結果

以上の分析手法を用いた分析結果をもとに集積性・成長性のマトリックス図としたものが、図3である。ここでは対全国との比較、及び大都市圏を除く対全国との比較を行っている。

この図3に示されるマトリックス図から中国地域における個々の産業経済事象の枠組みごとの特徴について、明らかとなる点は以下の通りである。

(1) 産業経済事象に対する分析結果

① グローバル化に含まれる産業経済事象

産業のグローバル化の動きを「水平分業化の進展」、「製品輸入の増大」、「外資系企業の進出」、「外国との人的交流の増大」から検討する。

対全国との比較ではこれら産業経済事象の集積性、成長性がマイナスとなっており、グローバル化の進展が遅れている状況にある。ただし、外国との人的交流の増大の成長性はプラスとなっており、中国地域においても近年の地方の国際化の流れにそった事象が進みつつあることがわかる。

対大都市圏を除く全国においても、ほとんどの産業経済事象が集積性、成長性ともに劣る状況となっている。地方地域においても中国地域のグローバル化の遅れを指摘することができる。ただし、外国企業の進出の成長性は高いことから、素材系、輸送機械等の世界的な企業が存在を背景として、外国企業の進出の素地はあると考えられる。

② ソフト化・サービス化に含まれる産業経済事象

産業のソフト化・サービス化の動きを「サービス産業の量的拡大」、「企業活動におけるソフト化の進展」、「サービス部門の独立化の進展」からみる。

対全国との比較では「企業活動におけるソフト化の進展」の成長性がプラス評価となっている。

大都市圏を除く対全国との比較では、「企業活動におけるソフト化の進展」の集積性・成長性が、「サービス産業の量的拡大」の集積性が進んでいる結果となっている。

逆に「サービス部門の独立化の進展」は、対全国、大都市圏を除く対全国ともにかなり遅れている状況にある。

企業にとって、「サービス部門の独立化の進展」は、「企業活動におけるソフト化の進展」をさらに

進めた方向であると考えられる。このため、中国地域では現在「企業活動におけるソフト化の進展」が集積し、成長が進む段階にあるが、今後は、大都市圏でみられるように「サービス部門の独立化の進展」がより進展してくる可能性が高いと考えられる。

③ 創知化に含まれる産業経済事象

産業の創知化の動きを「研究開発の重視」、「デザインの重視」からみる。創知化の動きは、東京を中心とした動きをしており、各地方圏では集積性、成長性とも低くなっているのが現状である。

対全国では「研究開発の重視」、「デザインの重視」の成長性が高く、大都市圏を除く対全国においては「研究開発の重視」、「デザインの重視」とも集積性、成長性が高くなっている。このことから中国地域は、地方圏の中では、創知化の進展している地域であり、成長性からみて大都市圏の創知化レベルに追いつこうとしている姿が明らかになる。

④ 情報化に含まれる産業経済事象

産業の情報化の動きを「情報産業の成長」、「企業内における情報処理部門の増加」、「コンピュータの導入の増加」、「工場のF A化の普及」からみる。

対全国では、「情報産業の成長」、「コンピュータの導入の増加」の成長性が高く、大都市圏を除く対全国では「コンピュータの導入の増加」を除く他の指標も集積性が高くなっている。さらに「情報産業の成長」、「コンピュータの導入の増加」はかなり高い成長性を有している。

中国地域の情報化は、大都市圏と比べても「コンピュータの導入の増加」、「情報産業の成長」を中心として進展してきており、地方圏の中でも情報化がより進んできている地域となっている。

この流れは、企業の情報化の流れ、人材を求めている情報産業の地方分散化を反映したものとなっているといえる。

⑤ 物流高度化に含まれる産業経済事象

産業の物流高度化の動きを「モーダル・シフトの進展」、「少量物品輸送の増加」からみる。

対全国に対して中国地域では、成長性において「モーダル・シフトの進展」が進み、「少量物品輸送の増加」が全体に遅れている状況にある。

大都市圏を除く対全国に対しても同様の結果と

なっている。

中国地域は、海運に從來から恵まれている地域であることから、モーダル・シフトの進んだ地域であったといえるが、近年はさらにモーダル・シフトを全国的に先導する形で進んでいるといえる。

⑥アメニティ化に含まれる産業経済事象

産業のアメニティ化を「就業時間の時間短縮化」、「高齢者の社会進出」、「女性の社会進出」からみる。

対全国でみると、「高齢者の社会進出」、「女性の社会進出」の集積性が高く、「就業時間の短縮時間化」は全国よりも若干の遅れが見える状況となっている。

大都市圏を除く対全国でみても「高齢者の社会進出」、「女性の社会進出」の集積性は高くなっている。しかしながら、それらの成長性は劣る結果となっている。逆に「就業時間の短縮化」は全国よりも若干進んでいる結果となっている。

この結果は、中国地域では、第一次産業が盛んなこともあって、高齢者、女性の社会進出は從來から進んでいる。しかしながら、ゆとり労働の質としてみることができる「就業時間の短縮化」は、大都市圏の方がより進んでおり、中国地域も地方圏では進みつつも、大都市圏には及ばない結果となっている。

⑦地域共生化に含まれる産業経済事象

産業の地域共生化を「企画開催イベント回数の増加」、「社会貢献の実施企業の増加」からみる。

対全国、大都市圏を除く対全国に比べ、中国地域は、集積性において劣る結果となっている。

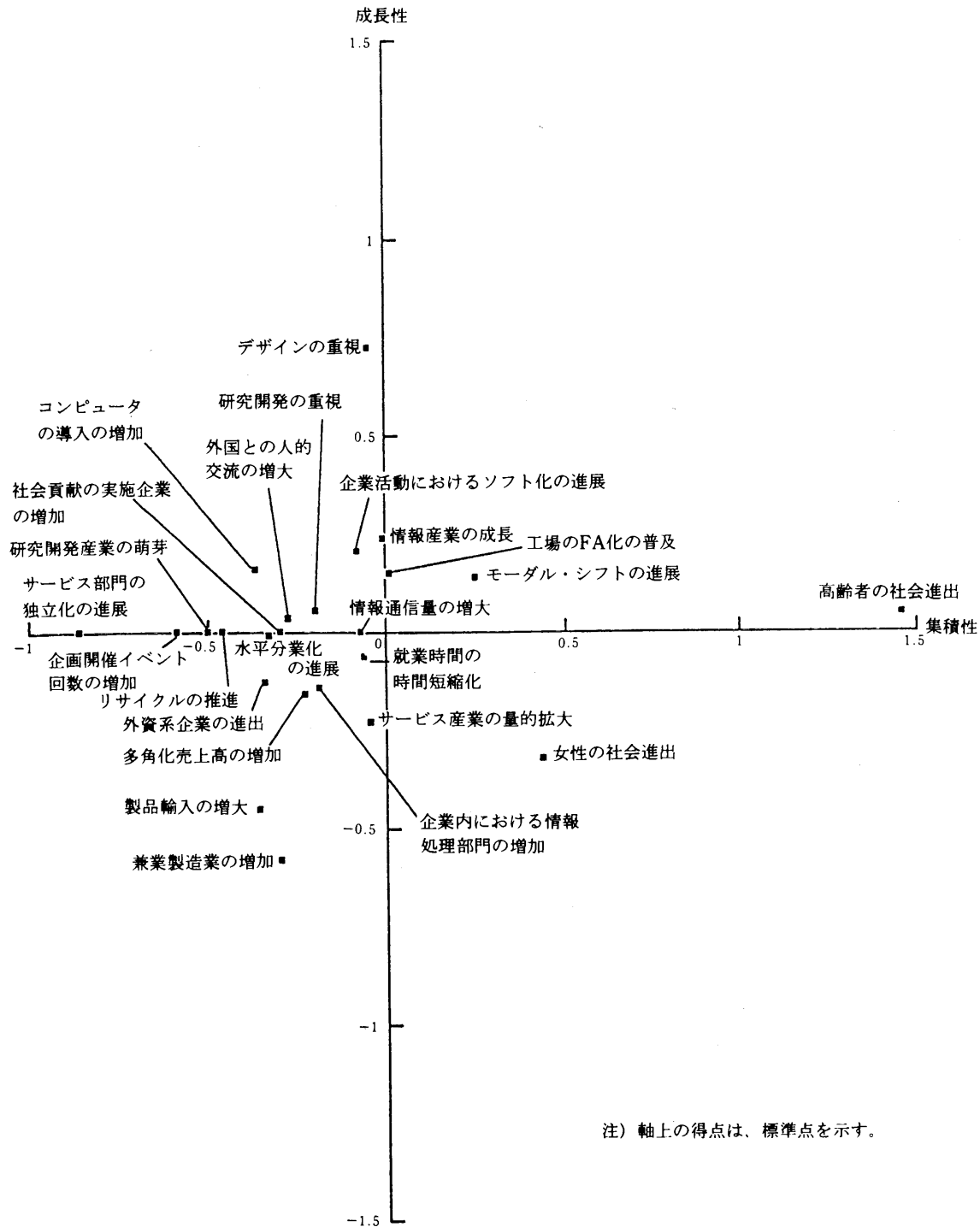
⑧地球環境重視化に含まれる産業経済事象

産業の地球環境重視化を「リサイクルの推進」からみる。中国地域は、対全国、大都市圏を除く対全国とも遅れている結果となっている。

⑨多角化に含まれる産業経済事象

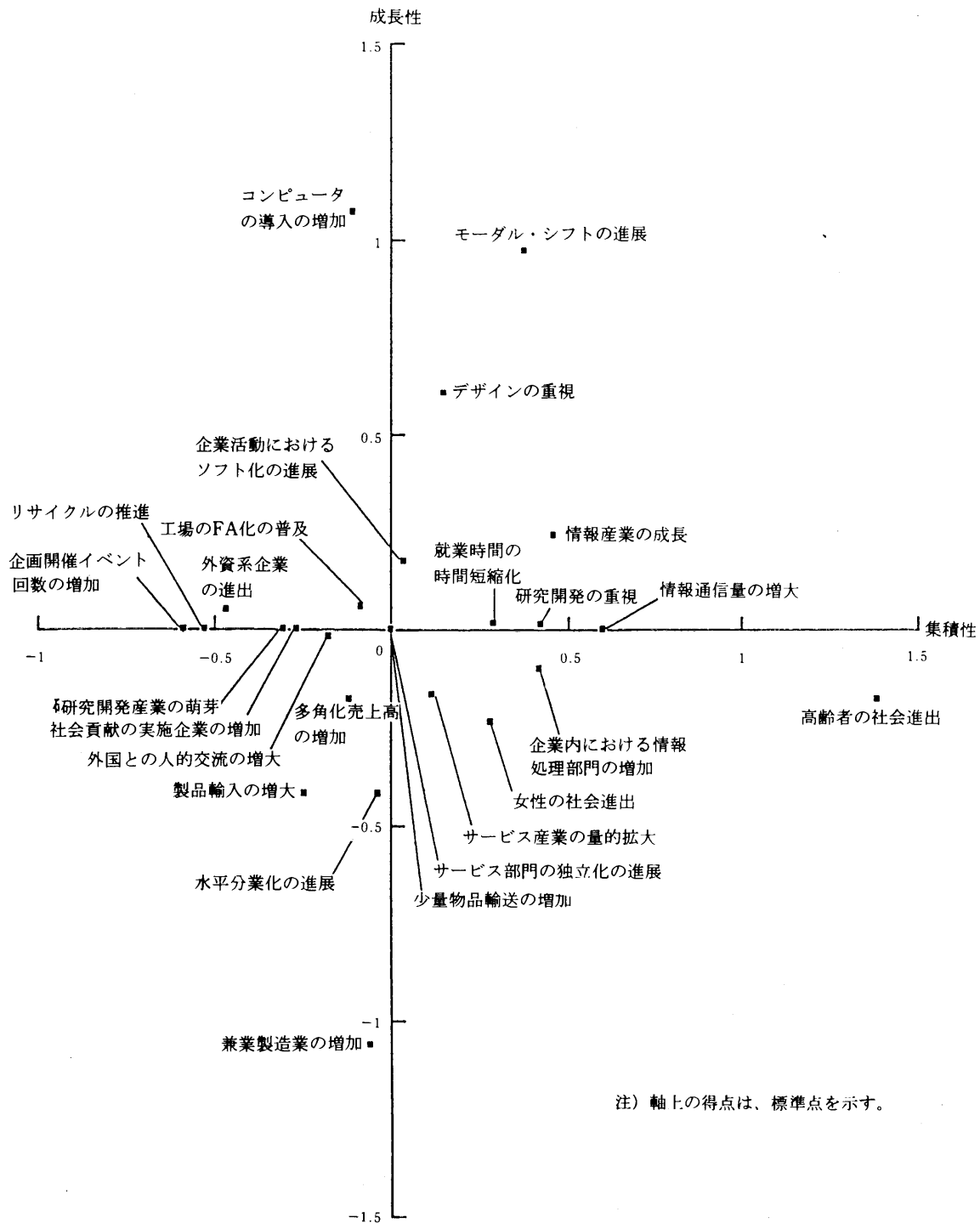
産業の多角化を「兼業製造業の増加」、「多角化売上高の増加」からみる。中国地域では、対全国、大都市圏を除く対全国ともその集積性、成長性とも遅れている状況となっている。

図3 産業経済事象の集積性・成長性の状況
(対全国)



注) 軸上の得点は、標準点を示す。

図4 産業経済事象の集積性・成長性の状況
(大都市圏を除く対全国)



注) 軸上の得点は、標準点を示す。

(2)地域比較からみた分析結果

さらに、ここでは産業経済事象の枠組み別の特徴を中国地域と他地域と比較しながら検討すると次のようになる（図5～図13）。

①グローバル化

外へのグローバル化である水平分業化、内へのグローバル化である外資系企業進出をみると、グローバル化が内外ともに進んでいる地域は、関東、近畿である。中国地域は九州、東北、四国と同様に内外とも進んでいない地域として位置づけられている。大都市圏を除く全国の中でも中国地域はあまり進んでいない地域となっている。

次に人からみた内、外へのグローバル化についてみると、中国地域は外へのグローバル化を示す「学術研究・調査のための出国者」、内へのグローバル化を示す「研修目的入国者数」が低くなっている。しかしながら地方圏の中では、中国地域の外へのグローバル化は進んだ地域と評価することができる。

②ソフト化・サービス化

企業内部のソフト化・サービス化である「間接部門従業者」と外部のソフト化・サービス化である「対事業所サービス従業者の成長性」をみると、中国地域の内部のソフト化・サービス化は全国で最も進み、外部のソフト化・サービス化は遅れている状況となっている。

③創知化

研究機能の集積を示す「自然科学研究所の従業者」と、「研究開発費」からみると、関東への一極的な集中状況であることがわかる。中国地域は、対全国において、他の地方圏と同様に研究に関する創知化のあまり進んでいない地域の1つとなっている。しかしながら、地方圏においては集積性の最も高い地域となっている。

次にデザインに関する創知化をみると、中国地域では、デザインに関する成長性が九州地域に次いで、東海地域とともに高いことがわかる。

④情報化

人の面からの情報化をみる。量的な指標として「情報サービス従業者数の集積」、質的な指標として「情報技術者の集積性」から検討すると、関東地域が量、質とも一極的な集中状況にあると言える。中国地域は、東海、北陸地域とともに、量的には劣るものの情報技術者の集積が高いことか

ら、高い質を有している状況にある。また大都市圏を除く場合には、中国地域は地方圏の中でも量・質とも最も高い集積性となっている。

⑤物流高度化

モーダル・シフトを「鉄道・海上輸送量の成長性」から、物流の高速化を「航空輸送量の成長性」からみると、中国地域は、モーダル・シフトの進展が高くなっている。その理由として、中国地域が瀬戸内海を利用した海上輸送の利便性が高いこと等が考えられる。

大都市圏を除いた場合には、中国地域はモーダル・シフト、物流の高速化とも最も進んだ地域となっている。

⑥アメニティ化

就業における時間的な面からのアメニティをみると、大都市地域での進展がみられ、地方圏では逆に低くなっている。

一方、ホワイトカラーの「女性の就業状況」をみると、事務部門等のビジネス社会への進出状況では中国地域はかなり高くなっている。

⑦地域共生化

企業メセナ活動と企業開催イベント状況から、企業による地域共生化についてみると、中国地域は企業による地域共生化がかなり遅れた地域となっている。

特に企業によるメセナ活動が全国でも最も遅れた地域である。

⑧地球環境重視化

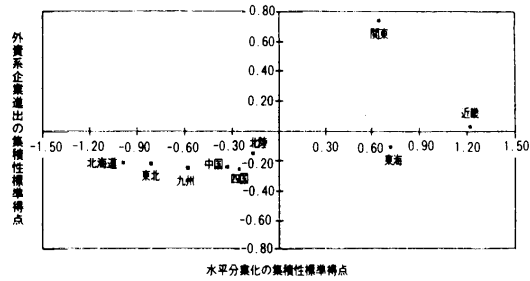
地球環境重視化をリサイクルの推進状況からみると進んでいる地域は、東海、四国地域となっている。中国地域は全国的にも遅れた地域となっている。

⑨多角化

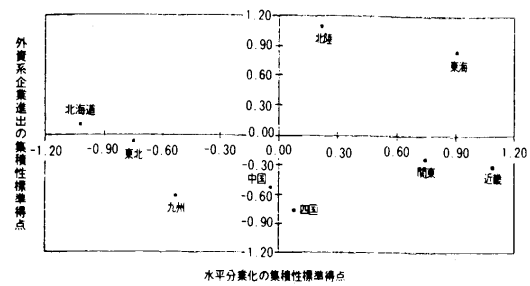
多角化を多角化売上高の増加、兼業製造業の増加からみると、中国地域は両指標とも全国平均以下であり、多角化の進んでいない地域となっている。

図5 グローバル化

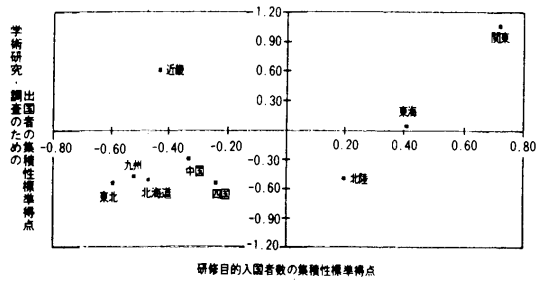
①水平分業化×外資系企業進出
(対全国)



(大都市圏を除く対全国)



②研修目的別入国者数×研究調査出国者数
(対全国)



(大都市圏を除く対全国)

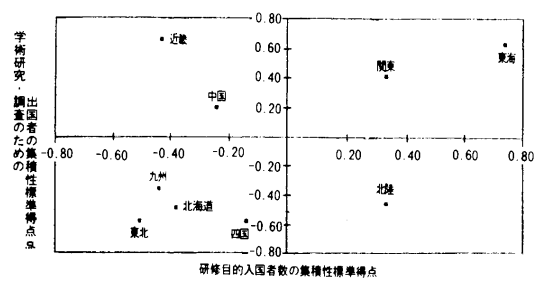
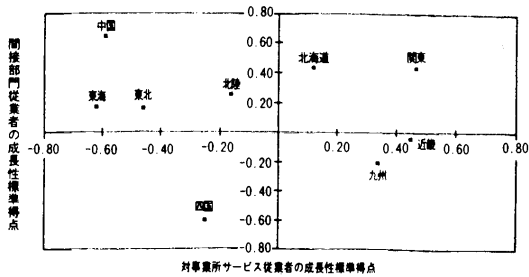


図6 ソフト化・サービス化

①対事業所サービス業×間接部門従業者
(対全国)



(大都市圏を除く対全国)

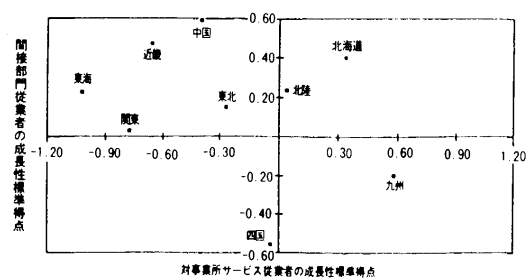
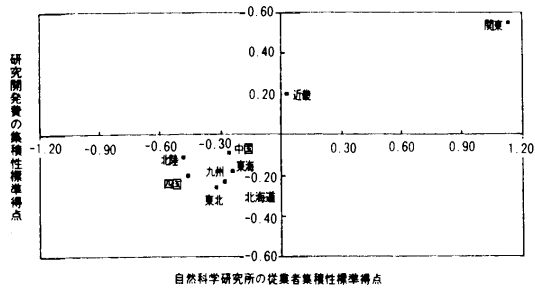
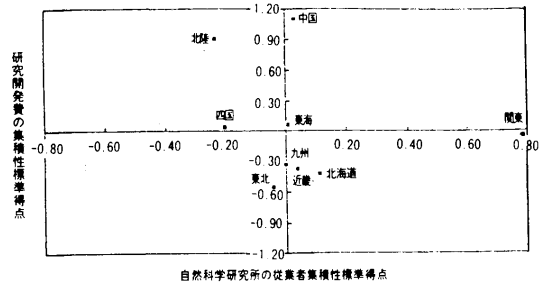


図7 創知化

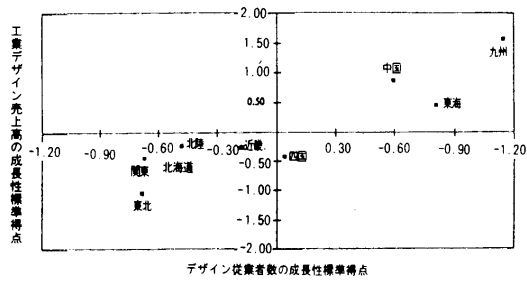
①自然科学研究所の従業者数×研究開発費
(対全国)



(大都市圏を除く対全国)



②デザイン従業者×工業デザイン売上高
(対全国)



(大都市圏を除く対全国)

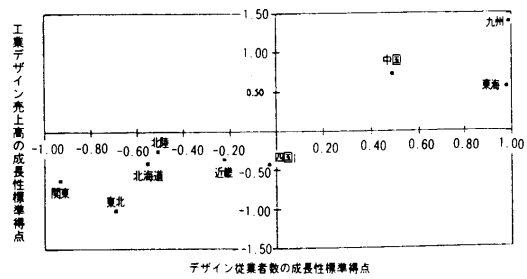
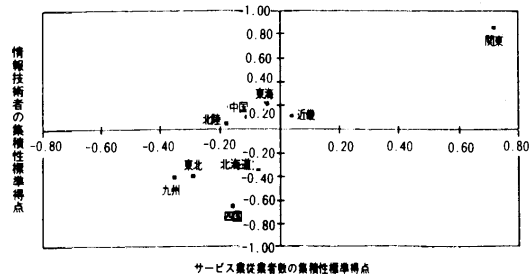


図8 情報化

①情報サービス業×情報技術者数
(対全国)



(大都市圏を除く対全国)

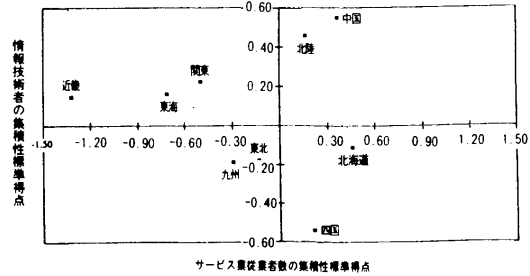
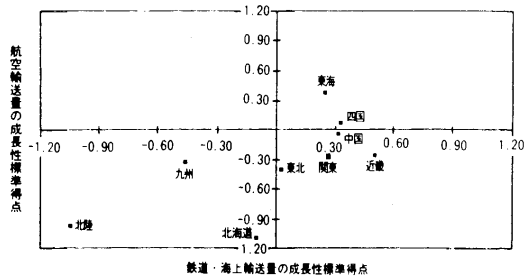


図9 物流高度化

①鉄道・海上輸送量×航空輸送量
(対全国)



(大都市圏を除く対全国)

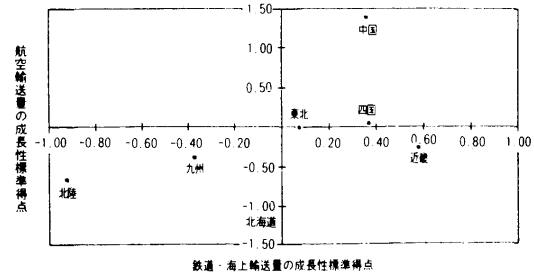
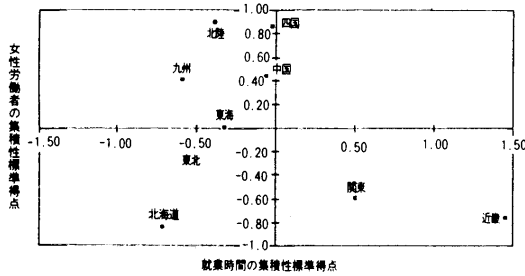


図10 アメニティ化

①就業時間×女性労働者
(対全国)



(大都市圏を除く対全国)

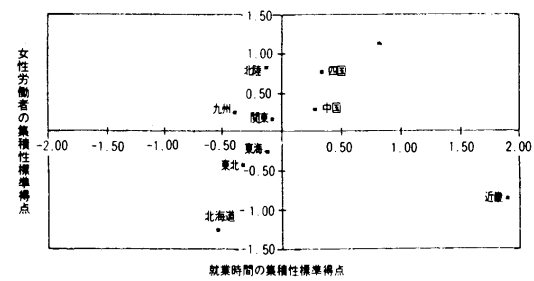
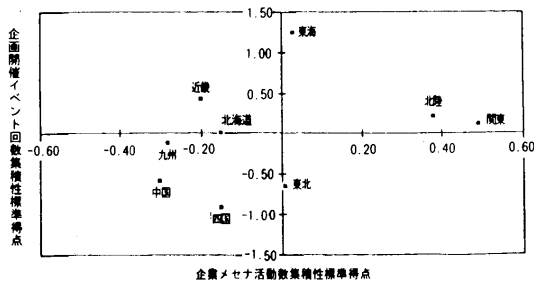


図11 地域共生化

①企業メセナ開催数×企業開催イベント数
(対全国)



(大都市圏を除く対全国)

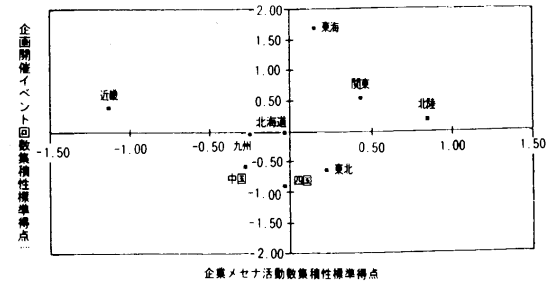


図 1 2 地球環境重視化

①リサイクルの推進状況

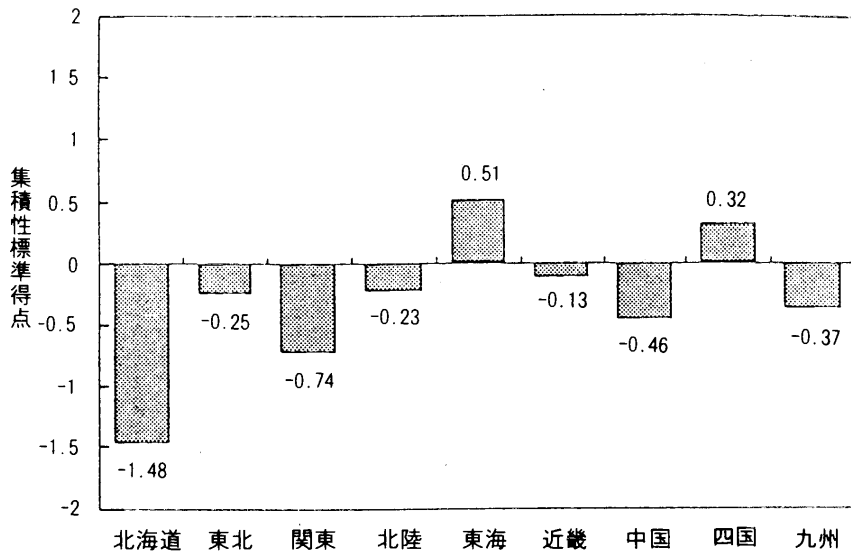
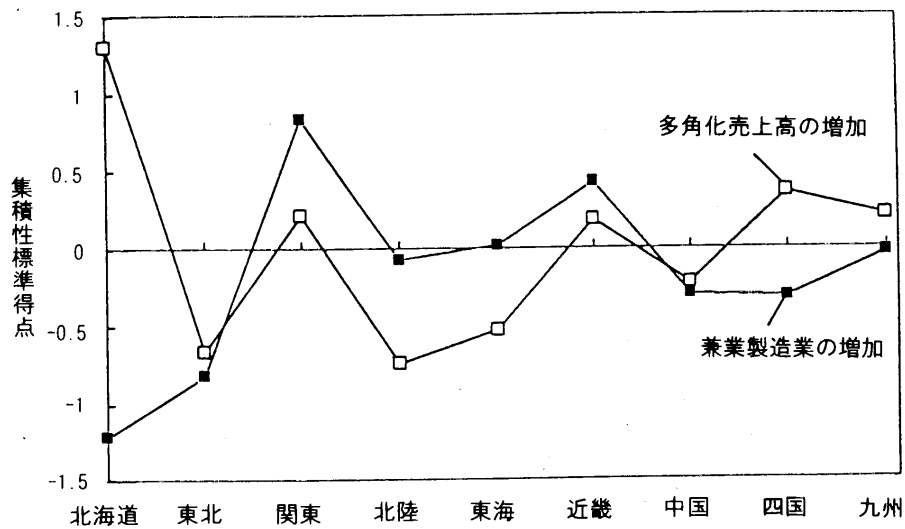


図 1 3 多角化

①多角化売上高、兼業製造業



以上から、産業経済事象分析結果をまとめると、中国地域において比較的進んでいる事象としてソフト化・サービス化、デザイン機能重視化、情報化、モーダル・シフト化等である。逆に進んでいない事象としては地域共生化全般、地球環境重視化全般、多角化、グローバル化全般等となっている。

表3 産業経済事象分析結果

産業経済事象の枠組み	産業経済事象グループ	産業経済事象	中国地域の状況
グローバル化	入ってくる国際化	外資系企業の進出 外国との人的交流の増大(入国)	→集積度少なく地方圏比較では高成長度(企業) →集積度、成長度とも低い
	出ていく国際化	水平分業化の進展 外国との人的交流の増大(出国)	→集積度、成長度とも低い →地方圏比較では研究・調査出国者の高い集積度
ソフト化・サービス化	産業構造のソフト化・サービス化	サービス産業の量的拡大	→対事業所サービス業、特定サービス業の高い集積度
	企業内のソフト化・サービス化	企業活動におけるソフト化の進展 サービス部門の独立化の進展	→企業内間接部門の高い集積度 →低い集積度
創知化	研究機能重視化	研究開発の重視 研究開発産業の萌芽	→研究所、特許出願数等高い成長度 →低い集積度
	デザイン機能重視化	デザインの重視	→地方圏比較では高い集積度、成長度
情報化	コンピュータ化	コンピュータの導入の増加 企業内における情報処理部門の増加 情報産業の成長	→地方圏比較では高い集積度、成長度 →地方圏比較では高い集積度 →情報技術者の高い集積度、成長性
	コミュニケーション化	情報通信量の増大	→パーソナルメディア情報供給量の高い集積度
	オートメーション化	工場のFA化の普及	→導入企業の高い成長度
物流高度化	少量定時性の重視	少量物品輸送の増加	→低い集積度、成長度
	モーダルシフト化	モーダル・シフトの進展	→鉄道、船舶の高い集積度、成長度
アメニティ化	就業環境重視化	就業時間の時間短縮化	→地方圏比較では高い集積度、成長度
	高齢者・女性の社会進出の環境づくり	高齢者の社会進出 女性の社会進出	→高い集積度、成長度 →高い集積度、成長度
地域共生化	企業イベント開催の重視化	企業開催イベント数の増加	→低い集積度
	地域内貢献活動重視化	企業メセナ活動の増加	→低い集積度
地球環境重視化	リサイクルの重視	リサイクル率の増加状況	→低い集積度、成長度
多角化	製造業の異業種展開	多角化売上高の増加	→低い集積度、成長度